

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2792000016
法人名	社会福祉法人宥恵会
事業所名	グループホーム ゆうけいスマイル
訪問調査日	平成21年 3月 4日
評価確定日	平成21年 4月 2日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月7日

【評価実施概要】

事業所番号	2792000016
法人名	社会福祉法人 宥恵会
事業所名	グループホームゆうけい スマイル
所在地	大阪市住吉区遠里小野2丁目7番20号 (電話)06-6609-6815

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	平成21年4月2日

【情報提供票より】(平成21年3月4日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5階建ての 階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有(円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	○ 有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.5歳	最低	77歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人慈心会 あびこ病院、医療法人錦秀会、医療法人宥和会
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南海我孫子前駅近くの天和川中学に隣接する定員9名のグループホームである。社会福祉法人宥恵会の併設施設として特別養護老人ホーム、診療所、短期入所生活介護、養護老人ホームを開設している。地域に開かれたホームとして近隣住民との連携や交流も積極的で併設大ホールの催しや法人全体の行事にも参加している。日々の生活はその人らしい暮らしができるよう一人ひとりの人格を尊重した利用者主体の質の高い介護を提供する為介護計画を重視している。特に入浴には力をいれ利用者全員が毎日個人浴をすることができ更に夜間入浴も実施されている。清潔で安全な居住空間で居心地よい生活が保持され、社会福祉法人としてモデルとなるべく努力しており協力医療機関との連携も密で安心できる支援体制が築かれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はなし
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と職員が話し合いをもち自己評価や外部評価の意義を理解している。自己評価と外部評価の相違に着目し年間の業務の具体的改善への位置づけとして真摯な取り組みがなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	包括支援センター包括支援課長、地域振興会会長、社会福祉協議会会長、地区ネットワーク委員、利用者家族、管理者が出席して概ね2ヶ月に1回開催されている。会議ではホームの現状、活動状況、行事の計画、地域との交流内容、家族との意見交換が行われている。討議で地域の状況や、ニーズを把握し、ホームとしても活動内容の評価を行い積極的に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・相談受付窓口は重要事項説明書に記載した意見箱も設置されている。家族来訪時や家族参加の機会に出来るだけコミュニケーションをとるように努めている。また家族の個別相談、要望、意見を聞き介護計画に反映できる仕組みとなっており安心納得が得られるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム周辺の散歩途中、近隣住民と会話や会釈を交わし地域の行事などに招待されたり見学に行くなど親しく交流をもち地域との連携を深めている。中学の文化祭にも参加し利用者や触れ合う機会をもちボランティアの参加で各種のお稽古事が行われ興味のある分野に少人数のグループごとに自由に参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの運営理念として「一、明るくぬくもりのあるホーム」「二、清潔で安全なホーム」「三、地域に開かれた信頼されるホーム」として地域の中でその人らしく明るくぬくもりのある暮らしを支える地域密着型サービスの理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目に付く所に張り出し朝礼の時間に唱和している。目標を掲げ月末に課題を全員で検討しさらに次月の目標として理念の下に書き込み理念と共に唱和している。家族来訪時もしすぐ目につくところに置き、理念が日々の生活の中で自然に根付くよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に開かれた信頼される事業所として積極的に地元の人々との交流に努めている。管理者は福祉委員もつとめ青少年の育成や敬老会、運動会などの準備に地域の一員としてたずさわっている。また地元職員も地域活動に積極的に取り組んでおり地域住民との関係も良好である。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価、外部評価の意義を理解し日常より暮らしの中に自然な形で取り込まれ改善が図られている。結果は全職員が共有している。さらに「5つのミッション」と「14のベーシック」をかかげ評価と共に日々の指針として実践されている。		5つのミッションと14のベーシックの中の一つに「できない、わからないとはじめから諦めるのではなくアプローチをかえて対応します。出来る方法は必ずあります。私達の可能性は無限です。」とある。これらを掲示し日々真摯に取り組んでいる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域密着型サービスとしての意義、目的を織り込み、現状の活動状況、行事の計画、地域との交流内容、家族との意見交換、現時点での要望やお願いなどが討議されている。また大阪市の実地指導監査の結果報告も合わせてサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として管理者は大阪市の認知症介護の指導や分科会への参加、要介護認定等の調査にかかわり市担当者とも連携があり随時相談報告をしサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の近況や健康状況をお知らせし、金銭管理などは個人別の出納長にレシートを貼付しサインまたは押印を依頼して確認を得ている。また毎月「スマイル新聞」を発行し担当者の自筆で近況報告を出している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は重要事項説明書にも明記し苦情箱も設置している。家族の来訪時に声がけをしコミュニケーションを図っている。また自然に打ち解けて話しやすい雰囲気づくりに努め、相談や要望を把握して日常ケアの見直しなどに反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の希望や意見を尊重し、離職防止の環境づくりに努めている。職員の移動が生じた場合、利用者への影響を最小限にするよう努め、日常生活に混乱はきたしていない。また今迄離職者は極めて少なく安定している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に受講し研修後は職場実習発表が行われ職員間の共有を図っている。管理者は法人内外で講師としての役割も担い日常業務の中で、働きながらトレーニングしていくことも実施している。5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)にも積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、大阪市老人福祉施設連盟、住吉区福祉施設連絡会を通じて、同業者との交流の機会を持ち情報交換を行っている。情報は会議で職員に連絡をし、サービスの質向上に活かすよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅訪問をして本人や家族と話し合いをもち、さらにホームの見学をして頂き安心、納得の上でサービスを開始している。家族との連携を密にしながら現状や生活歴を把握し、徐々に雰囲気に馴染めるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立支援を念頭に一人ひとりのできる事、得意な事などを大切にしながら共に支えあう関係を大事にしている。人生の大先輩としての敬意をはらい、日々の生活の中での知恵や考え方、料理や後片付けなどを学んだりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式により利用者の様々の思い・希望・意見・苦情などの把握に努めている。利用者の意思表示を尊重し困難な場合は家族と話し合い本人本位の暮らし方や意向となるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日モニタリングを行いその中から当月の課題を全職員で考案している。また家族面会時の話し合いやカンファレンスにより本人本位の介護計画書が管理者を中心に職員の話合いで作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期目標は6ヶ月とし短期目標は3ヶ月に設定している。日々の課題を月間モニタリング表(ホーム独自の考案)に記録して介護計画書に対する事後評価が綿密になされている。介護計画の見直しは状況変化に応じて本人・家族・関係者と話し合い、随時新たな計画書を臨機応変に作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設診療所において医療面のサポート体制があり、自主サービスとしては外出支援・移送サービス・受診・買い物、理美容サービスなど本人の要望により可能な限り柔軟な対応がとられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を尊重して、かかりつけ医の継続受診も行われている。かかりつけ医のいない場合、本人や家族に説明・同意を得て併設の診療所や協力医療機関で診療支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時において終末期のあり方・考え方をできるだけ早い段階で本人・家族と話し合いをもち、意向を聴取した結果をケース記録に記載している。重度化した場合揺れ動く家族の気持を配慮しながら医師や本人・家族と繰り返し相談して方針を職員全員で確認し共有している。また変化に応じての準備態勢も整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライドを損ねないような言葉かけや、入浴・排泄・清潔保持などのプライバシーに対しても十分な配慮がなされている。ケース記録は、パソコンによる一括管理で、記録の個人情報保護も徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れを考慮しながら利用者の生活習慣や行動、体調を考えてその人らしい過ごし方ができるよう支援している。朝食、就寝、散歩、買い物、入浴時間は希望を取り入れている。レクリエーションは全員同一の種目でなく3グループにわけて対応するような取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、後片付けは、利用者の積極的な参加があり、利用者と職員が一緒になって食事作りをする光景が見られる。定期的に利用者の希望・意見を聞き、食事が楽しめるように工夫し、食事は職員も共に同じものを食べながらさりげなく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴(個浴)は利用者全員、毎日楽しむことができ、ホームとして職員が力を入れている支援である。可能な限り夜間(21時)も入浴を行っている。入浴が不可能な場合や拒否される時は、足浴や清拭が実施され安全・清潔・感染防止に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ふれあい喫茶、手芸、買い物、散歩、おやつ、菜園での野菜・花作り、お料理などの楽しみごとがなされている。またボランティアや合同の催しが併設の大ホールで開催され参加している。廊下の壁には利用者の作品(書道・手芸作品など)が飾られ、一人ひとりの生活歴を活かした気晴らしの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添い、近隣周辺の散歩や地域のふれあい喫茶、図書館、スーパーなどへ買い物に出かけている。広報などをみて無料イベントなどにもでかける。また近隣住民の職員が地域のことをよく理解しているので日常的に気軽に外出をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常鍵をかけない取り組みがなされている。運営者、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、安全のため夜間のみ施錠している。日中は家族も我が家のごとく気楽に立ち寄り面会に来られたりオープンである。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署指導で年2回、法人全体で実施されている。避難誘導マニュアルも作成され、ホーム前の中学校に避難するように協力を得ている。原則として職員が救助に当たる。スプリンクラー・防災カーテン、消火器が設置され耐震建築である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養量と水分摂取量を記録して、その人の状態に応じた支援がなされている。毎日、記録しどの職員が見てもわかるようになっている。週2回程度ホーム独特の希望食が用意され、月1回は法人全体で給食委員会が開かれている。管理栄養士が献立を作成し栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンとダイニングリビングは明るく清潔で自由に庭に出入りでき、ガーデンテラスにはテーブルと椅子が置かれている。利用者は居心地良く外気浴や談笑ができ、生活感や季節感を感じることができる。共用空間はゆったりとして家庭的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの家具(箆笥やテーブル)や、テレビ、写真、仏壇などの使い慣れたものが持ち込まれ居心地よく過ごせる工夫がされている。居室は10畳とゆったりとしており表札にも工夫がみられる。		